

場 所		分 類		被ばく低減対策好事例集						
原子炉建屋内	R B	Y ZONE Y G ZONE その他 ()	1 時間	番号 0 2 - 0 1						
タービン建屋内	T B		2 距離							
R ZONE	R		3 遮へい							
Y ZONE	Y		4 線源の除去							
G ZONE	G		5 遠隔、ボット化							
その他	Z		6 汚染拡大防止							
()			7 その他							
内 容		高線量エリアにおける地盤改良工事の遮へい対策								
作業場所		1号原子炉建屋および1-2号機排気筒の周辺								
概 略		高線量線源である1-2号機排気筒からの被ばく量を抑えるため、遮へい壁設置の工学的対策と、カメラモニター設備による管理的対策を行い、被ばく量を低減した。								
評 価 (定性 定量)	効 果	対策前		対策後						
		被ばく線量(mSv)	933.5	428.6						
事例詳細										
対策前 1号原子炉建屋および1-2号機排気筒周辺は高い空間線量率であり、多くの被ばく量が懸念された。										
対策内容 地盤改良作業員の被ばく低減対策として、線源方向を考慮した遮へい壁の工学的対策。										
現場職員の被ばく低減対策として、カメラモニター設備を既存の遮へい設備に設置利用した管理的対策。										
・工学的対策（線源を考慮した遮へい壁構造による被ばく低減対策）										
図-1 鉄板で覆う遮へい設備			写真-1 遮へい設備 ・厚み16mm鉄板 (遮へい率50%)							
・管理的対策（既存の遮へい設備を利用したカメラモニター現場管理による被ばく低減対策）										
写真-2 職員の現場モニター室(現場近く) (線量率は外部の10分の1)			写真-3 定点カメラを4台モニター管理 (現場 : 監視室 = 6:4 の管理)							